

佐野市景況レポート

平成28年1～3月期



佐野商工会議所

〒327-0027 佐野市大和町 2687-1

TEL 0283 (22) 5511 FAX 0283 (22) 5517

HP <http://www.sanocci.or.jp>

E-mail s-cci@sanocci.or.jp

調査協力：佐野市あそ商工会

佐野市景況調査報告

(平成28年1～3月期)

佐野市内の建設業・製造業・商業・飲食店・サービス業290社を対象に調査し、204社(回答率70.34%)から回答がありましたものを取りまとめたものです。

《 概 況 》

円高傾向で為替の「影響はない」

平成28年1～3月期の為替影響アンケートによると、円安のマイナス影響感が減少し、76%の回答者が為替の「影響はない」と回答している。これは、ドル・円の為替相場が120円(H27/12)から112円(H28/3)に円高になったためと推測する。

また、市内各事業所の景気コメントをみると、消費増税に関する懸念と市役所新庁舎への期待が記載されている。当面の懸念材料は消費増税であるが、現時点では前回の消費増税時の駆け込み需要は発生していないようである。では、中長期の経営課題は、深刻化する少子高齢化社会への対応と言える。

2010年版中小企業白書では、中小企業は厳しい経済情勢の下、少子高齢化時代の新規事業展開にどのように取り組み成長していくのかを分析している。少子高齢化の取り組み例として、①個々の企業の強みを生かす中小企業の連携確保、②女性や高齢者の活用等の労働の多様化、③最先端の医療技術や健康食品の開発等のライフ・イノベーションの推進を挙げている。更に、「中小企業が新事業展開及び創業を行うことにより、危機と課題を乗り越える中に更に発展していくチャンスがある」と述べている。経営環境が大きく変化する状況では、自社が変化に対応しなければ存続は難しい、「変わらなければ仕事はなくなる」との認識が必要である。

佐野市景気レポート(平成28年1～3月期実績)をみると、全業種業況DI指数は▲15.6、前期(12月期)比▲1.7ポイントの業況悪化となった。利益DI指数は▲24.0(前期比+1.0)の僅かに改善、売上高DI指数は▲14.6(前期比+5.0)、販売価格DI指数は▲12.5(前期比+0.9)、仕入価格DI指数は7.3(前期比+4.9)となった。つまり、売上高は増加したが、仕入価格が上昇し販売価格が前期並みのため、利益は微増になったと推測する。

今後3ヶ月間(平成28年4～6月見通し)をみると、全業種業況DI指数は▲17.4(前期比+6.6)と業況改善を予想している。予想売上高DI指数は▲20.8(前期比▲0.2)、予想仕入価格DI指数は7.6(前期比+3.3)、販売価格DI指数は▲9.5(前期比+1.9)と、前期に比べ、仕入価格と販売価格は改善し、売上高は前期並と予想する。

調査協力：OKコンサルティング 代表 岡野 清 (中小企業診断士)

☆ 業況について（平成 28 年 1～3 月期実績）

全業種 DI 指数 ▲15.6、前期比 1.7 ポイント低下

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

- ①その他の製造業 17.6 ポイント、②飲食店 7.3 ポイント、③サービス業 5.5 ポイント、
- ④食品製造業 ▲5.7 ポイント、⑤卸売業 ▲7.7 ポイント

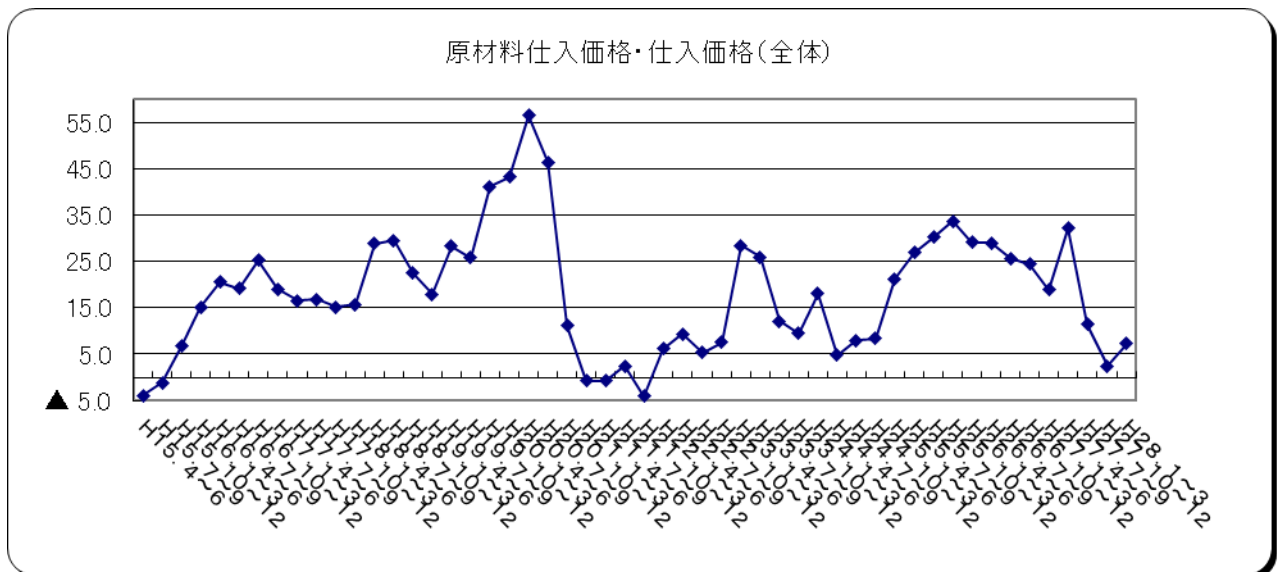


☆ 原材料仕入価格・仕入価格について（平成 28 年 1～3 月期実績）

全業種 DI 指数 7.3、前期比 4.9 ポイント上昇

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

- ①食品製造業 25.4 ポイント、②建設業 25.0 ポイント、③繊維品製造業 23.1 ポイント、
- ④飲食店 22.0 ポイント、⑤設備業 15.8 ポイント



☆ 売上高について（平成 28 年 1～3 月期実績）

全業種 DI 指数▲14.6、前期比 5.0 ポイント改善

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

- ①その他の製造業 37.5 ポイント、②飲食店 15.0 ポイント、③卸売業 0.0 ポイント、
④化学・プラスチック製造業▲5.1 ポイント、⑤食品製造業▲11.1 ポイント

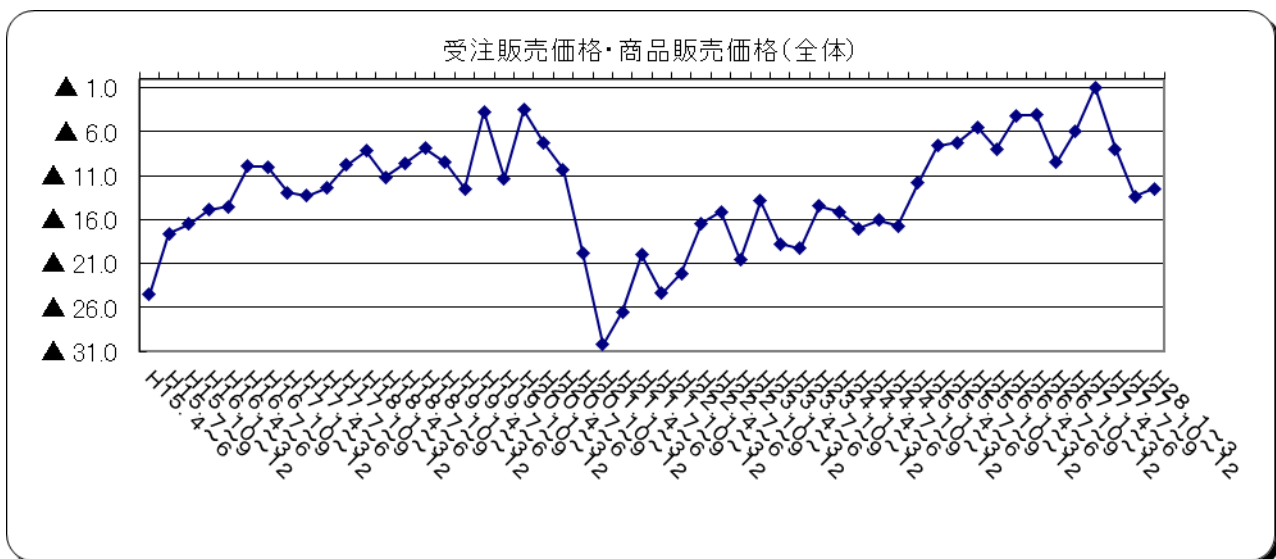


☆ 受注販売価格・商品販売価格について（平成 28 年 1～3 月期実績）

全業種 DI 指数▲12.5、前期比 0.9 ポイント改善

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

- ①飲食店 7.0 ポイント、②その他の製造業 0.0 ポイント、③食品製造業
▲4.9 ポイント、④サービス業▲5.1 ポイント、⑤建設業▲6.4 ポイント

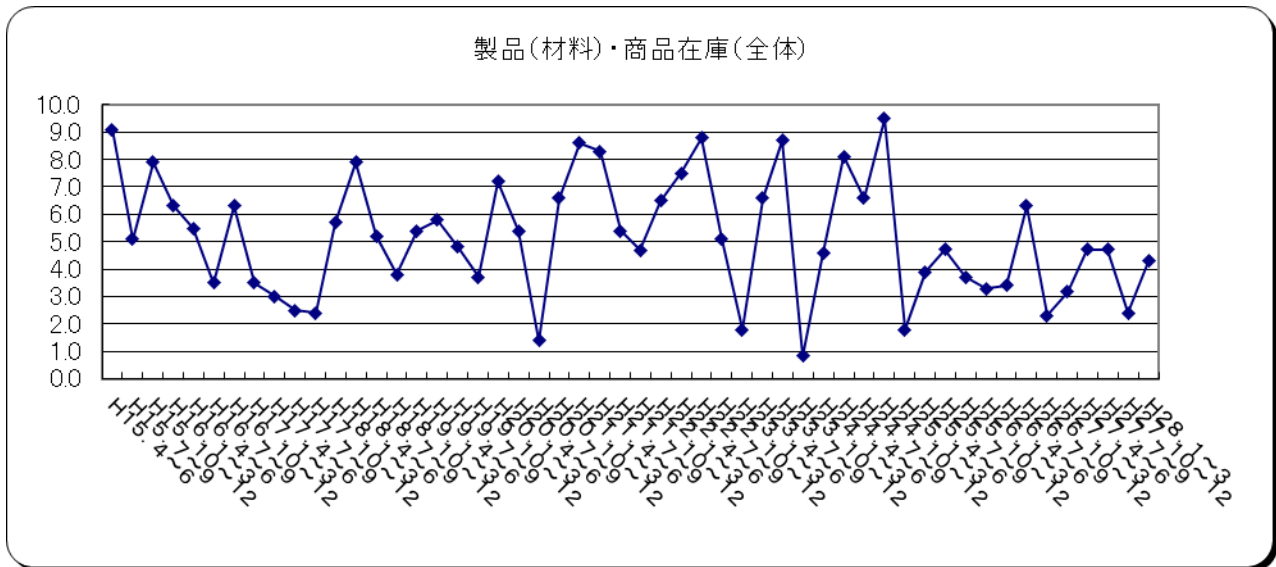


☆ 製品（材料）在庫・商品在庫について（平成28年1～3月期実績）

全業種DI指数 4.3、前期比 1.9ポイント上昇

業種別DI指数（上位5業種）

- ①機械・金属製造業 15.8ポイント、②卸売業 15.0ポイント、③その他の小売業（大型店含む）及び飲食店 12.7ポイント、④小売業（飲・食料品）6.4ポイント、⑤建設業及び設備業、繊維品製造業、食品製造業、化学・プラスチック製造業、その他製造業 0.0ポイント

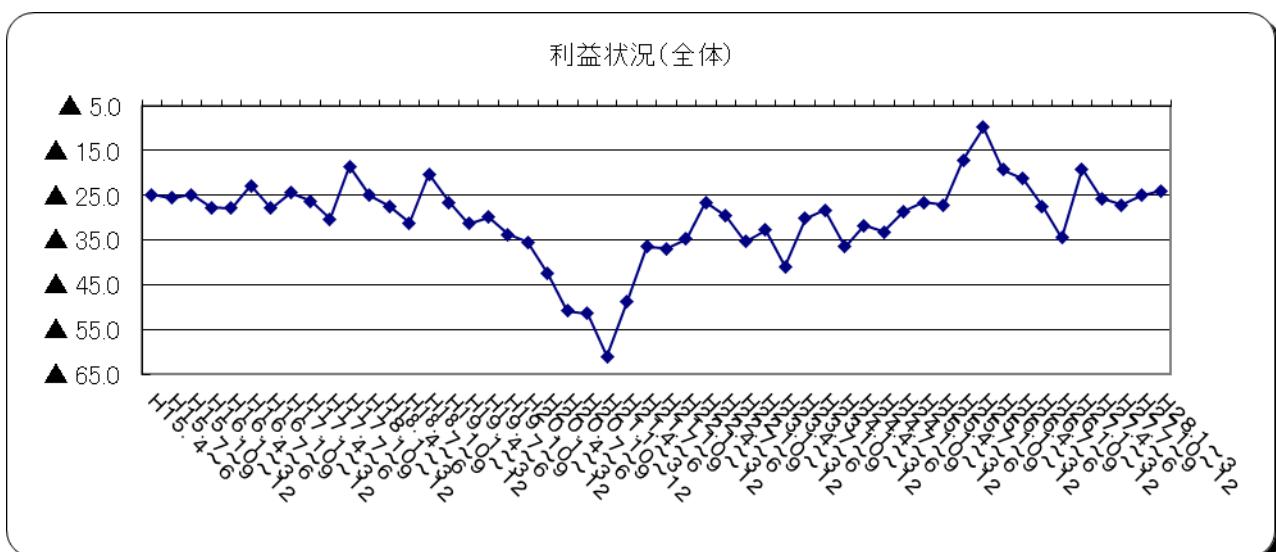


☆ 利益状況について（平成28年1～3月期実績）

全業種DI指数▲24.0、前期比 1.0ポイント改善

業種別DI指数（上位5業種）

- ①その他の製造業及び卸売業 0.0ポイント、③飲食店▲7.7ポイント、④サービス業▲12.5ポイント、⑤化学・プラスチック製造業▲15.3ポイント

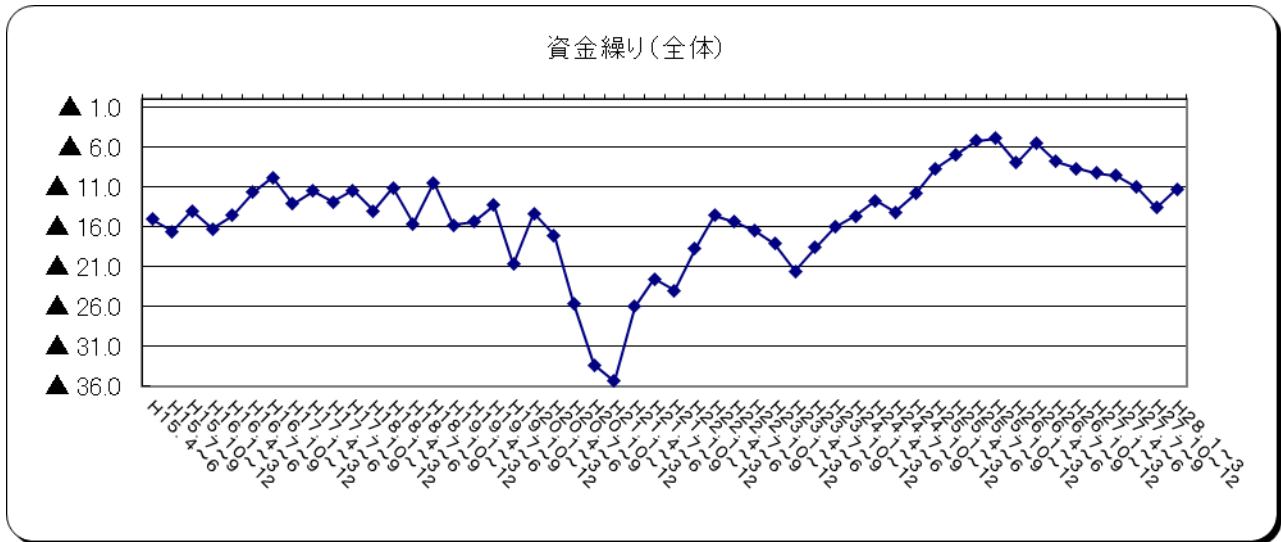


☆ 資金繰りについて（平成 28 年 1～3 月期実績）

全業種 DI 指数 ▲11.3、前期比 2.3 ポイント改善

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

①卸売業 15.0 ポイント、②食品製造業及び化学・プラスチック製造業及びその他の製造業 0.0 ポイント、⑤小売業（飲・食料品） ▲6.7 ポイント

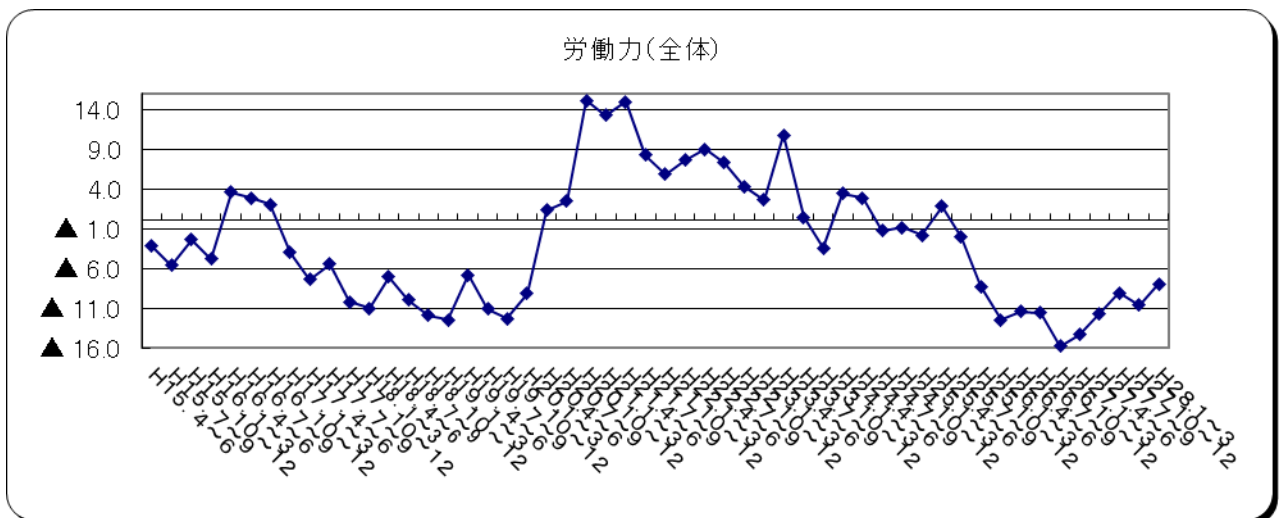


☆ 労働力について（平成 28 年 1 月～3 月期実績）

全業種 DI 指数 ▲8.0、前期比 2.6 ポイント改善

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

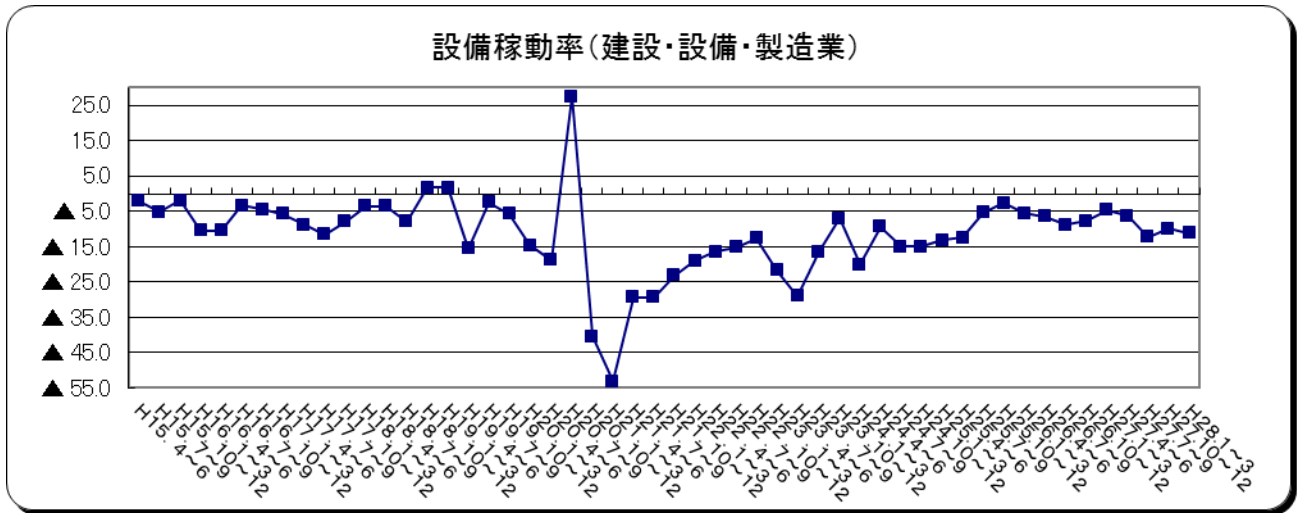
①機械・金属製造業 19.6 ポイント、②その他の製造業 15.8 ポイント、③卸売業 7.7 ポイント、④食品製造業 5.1 ポイント、⑤繊維品製造業 ▲7.3 ポイント



☆ 設備稼働率について（平成 28 年 1～3 月期実績）
（建設・設備・製造業関係）

全業種 DI 指数▲11.2、前期比 1.3 ポイント低下
業種別 DI 指数（上位 5 業種）

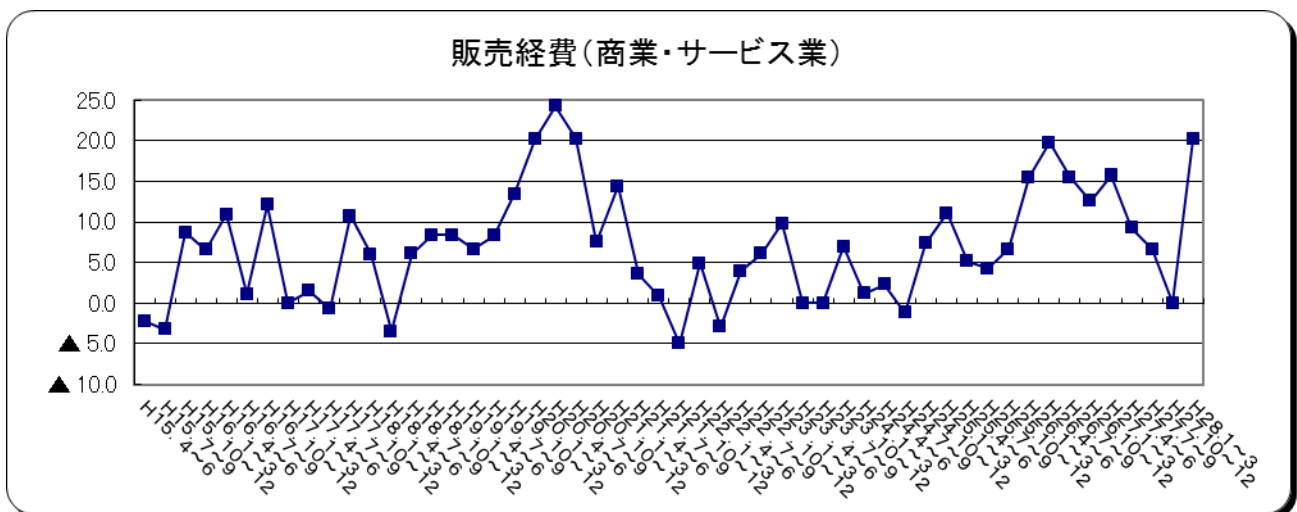
- ①その他の製造業 33.3 ポイント、②食品製造業▲5.1 ポイント、③建設業▲6.1 ポイント、④設備業▲8.6 ポイント、⑤化学・プラスチック製造業▲10.0 ポイント



☆ 販売経費について（平成 28 年 1～3 月期実績）（商業・サービス業関係）

全業種 DI 指数 20.3、前期比 20.3 ポイント上昇
業種別 DI 指数（上位 5 業種）

- ①卸売業及 38.5 ポイント、②小売業（飲・食料品）34.9 ポイント、③その他小売業（大型店含む）21.1 ポイント、④飲食店 14.3 ポイント、⑤サービス業 0.0 ポイント



☆ 今後3ヶ月先（平成28年4～6月期の見通し）の業況について

全業種DI指数▲17.4、前期比6.6ポイント改善

業種別DI指数（上位5業種）

- ①その他の製造業及び卸売業及び飲食店0.0ポイント、④化学プラスチック製造業▲9.4ポイント、⑤食品製造業▲10.3ポイント

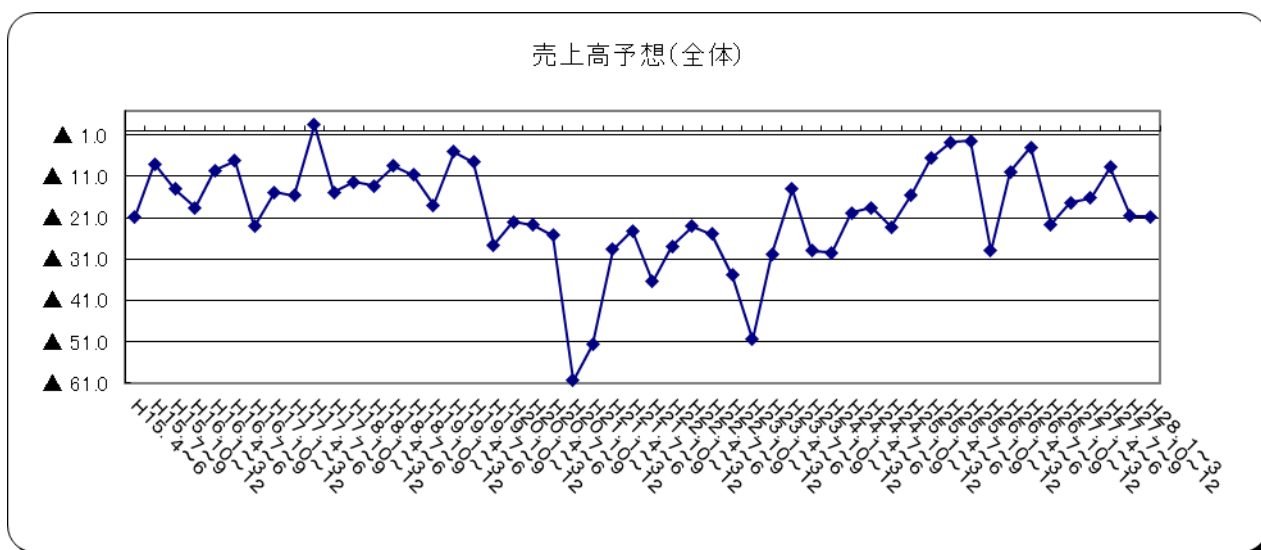


☆ 今後3ヶ月先（平成28年4～6月期の見通し）の売上高について

全業種DI指数▲20.8、前期比0.2ポイント低下

業種別DI指数（上位5業種）

- ①卸売業7.7ポイント、②その他の製造業0.0ポイント、③飲食店▲8.1ポイント、④建設業▲13.6ポイント、⑤化学・プラスチック製造業▲13.8ポイント

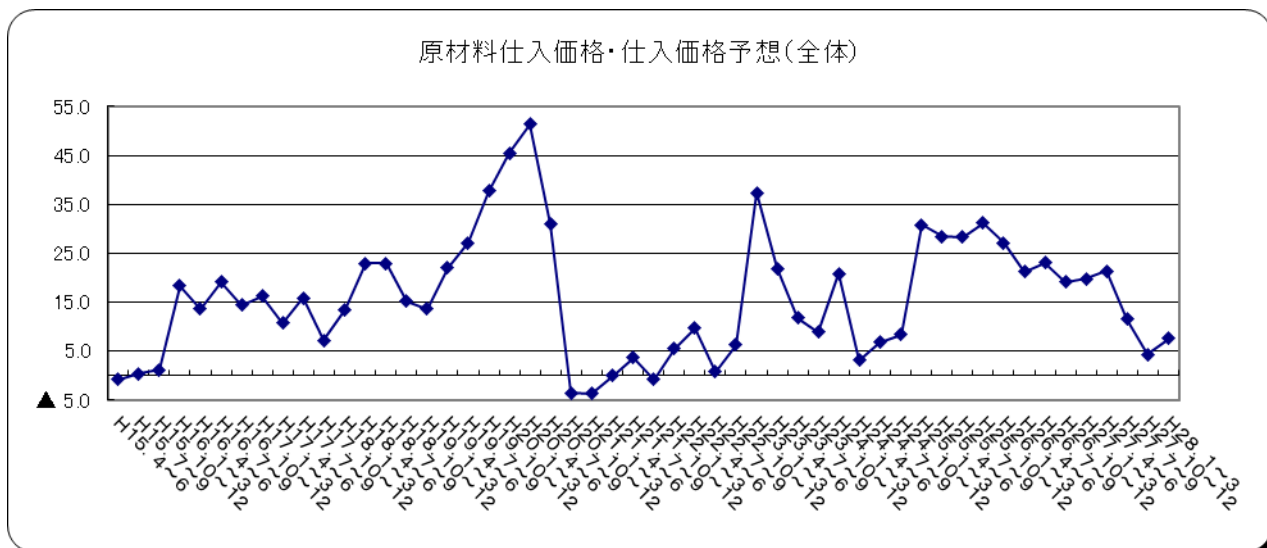


☆ 今後3ヶ月先（平成28年4～6月期の見通し）の原材料仕入価格・仕入価格について

全業種DI指数7.6、前期比3.3ポイント上昇

業種別DI指数（上位5業種）

- ①繊維品製造業及び飲食店 22.0ポイント、③建設業 18.4ポイント、④設備業及びその他製造業 15.8ポイント



☆ 今後3ヶ月先（平成28年4～6月期の見通し）の受注販売価格・商品販売価格について

全業種DI指数▲9.5、前期比1.9ポイント改善

業種別DI指数（上位5業種）

- ①その他の製造業 0.0ポイント、②化学・プラスチック製造業▲4.5ポイント、③食品製造業▲4.9ポイント、④サービス業▲5.1ポイント、⑤建設業 6.1ポイント



☆ 昨今の為替（円安）がもたらす自社への影響（売上・収益・経費等）について

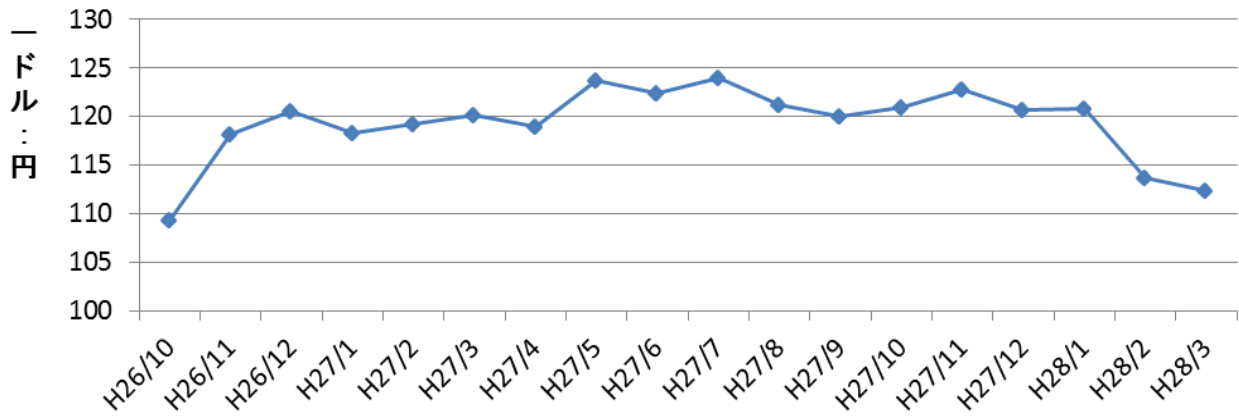
為替（円安）がもたらす 自社への影響について	平成 26 年 10-12 月期		平成 27 年 1-3 月期	
	構成比（%）	評価ポイント	構成比（%）	評価ポイント
①大幅にプラスの影響がある（+2P）	12%	24	0%	0
②若干プラスの影響がある（+1P）	7%	7	6%	6
③影響はない（0）	32%	0	49%	0
④若干マイナスの影響がある（▲1P）	38%	▲38	34%	▲34
⑤大幅にマイナスの影響がある（▲2P）	11%	▲22	11%	▲22
合計	100%	▲29	100%	▲50

平成 27 年 4-6 月期		平成 27 年 7-9 月期	
構成比（%）	評価ポイント	構成比（%）	評価ポイント
12%	24	0%	0
8%	8	6%	6
34%	0	58%	0
34%	▲34	29%	▲29
12%	▲24	7%	▲14
100%	▲26	100%	▲37

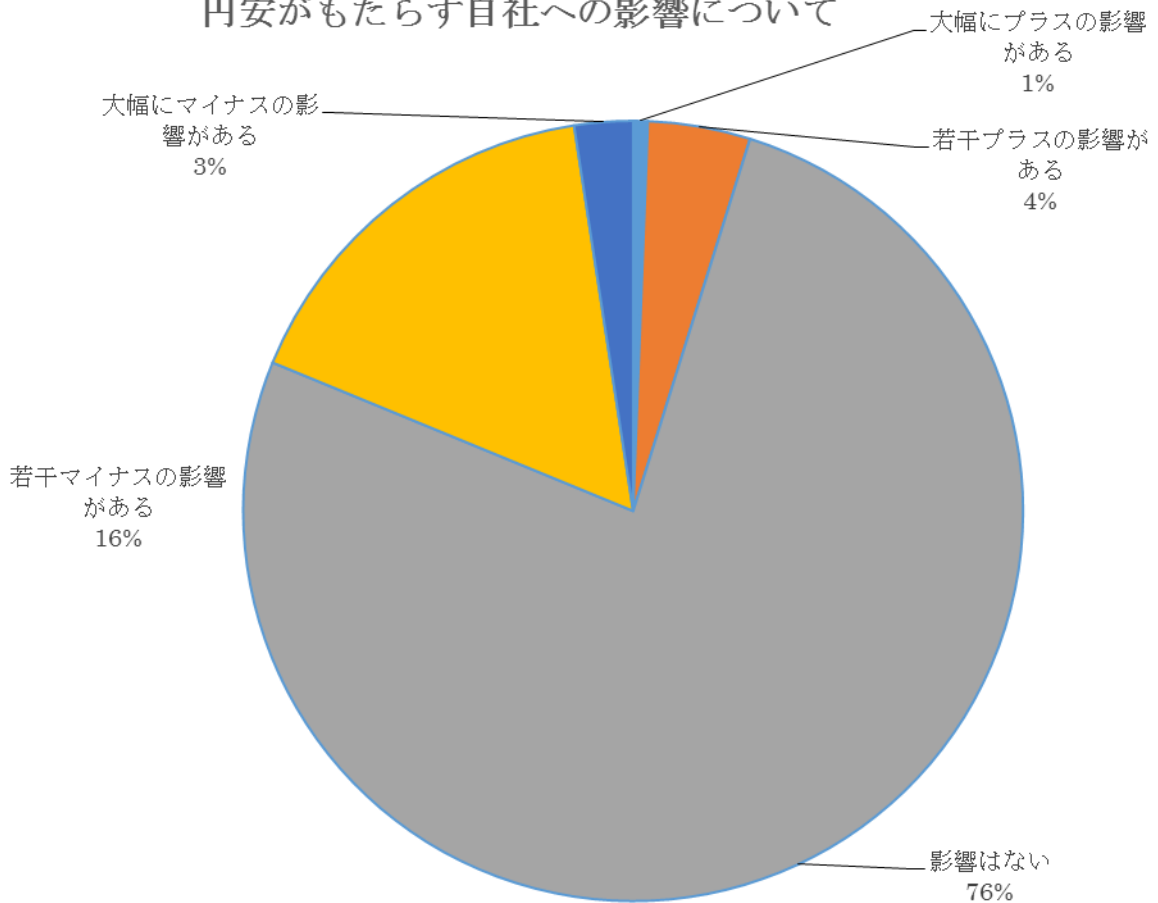
平成 27 年 10-12 月期		平成 28 年 1-3 月期	
構成比（%）	評価ポイント	構成比（%）	評価ポイント
1%	2	1%	2
7%	7	4%	4
61%	0	76%	0
26%	▲26	16%	▲16
5%	▲10	3%	▲6
100%	▲27	100%	▲16

※ 評価ポイントとは、設問①～⑤の項目について、+2ポイント～▲2ポイントを与え、構成比で乗じた値を評価ポイントとして記載したものである。

ドル・円為替レート 月末推移表



円安がもたらす自社への影響について



☆ 市内各事業所からの景況に関するコメント ☆

※景況調査にご協力いただきました事業所のうち、「景気に対するコメント欄」にご記入いただいた内容を、そのまま掲載しております。

建設業

- ・コメントなし。

設備工事業

- ・消費税 10%が見えていても、年度末かけ込み受注が見られない。

繊維品製造業

- ・コメントなし。

食品製造業

- ・1月～3月は、佐野厄除大師への参拝客でにぎわうので、忙しい日々を送りました。4月も忙しくなりそうです。街中のイベントがあると、お客様が増え活気が出ます。しっかり波に乗って行けるよう、がんばります。
- ・マイナス金利の影響が報道等で取り上げられているが、今のところ恩恵はない。騒ぎ立てるほど、何かが劇的に変化したわけでもないため、4月以降注視していきたい。大統領選も含めてどうなることやら…。
- ・アベノミクスは中小企業には関係ない。

機械・金属製品製造業

- ・新規の設備投資が少ない。
- ・建築関連の動きは、5月以降回復基調にあり。今は我慢の時。中国の市況反騰及び国内スクラップの上昇で市況は大底圏内。需要回復待ちにある。
- ・自動車の逆輸入が問題。
- ・震災から5年目！！復興は未だに進まず、何とかならないかと思えます。東北の人たちの生活をもう少し、都会にいる政治家に考えてもらいたいものです。オリンピックで浮かれている場合ではないと思えます。
- ・目前にせまる消費税 UP 後が気になります。駆け込み需要が起こらないような施策を期待します。
- ・全体的に横ばいである。
- ・相変らずの状況で当面は推移しそうな感じです。
- ・上記の通り最悪ですが、基本的に経営の姿勢にも問題有り。

化学・プラスチック製品製造業

- ・安定している。

- ・コストが上がらない。機械が大型化になり、機械1台に1名をつけると単価にあわなくなっている。決算（得意先）のため注文数減少。
- ・新規受注が昨年より少ない。但し、電力関係の設備に関する部品は1.5倍位増加している。

その他の製造業

- ・コメントなし。

卸売業

- ・国は大手企業の景況にて良し悪し判断しているように感じるが、もっと中小企業の景況に目を向けて欲しい。ひどい状況を認識して欲しい。

小売業（飲・食料品）

- ・市役所も新装オープン。又、駅前や各地での催し物等での集客でこれから先が少し楽しみです。
- ・景気が悪いようで、同じ商品でも価格の安い商品しか売れないとスーパーの店員との話。大手の会社は安い材料で大量につくっているから安く売れる。それに対抗するので苦しくなるのが現状です。

その他の小売業（大型店含む）

- ・ヨークベニマルの影響を多少受けている。
- ・新庁舎完成により、佐野市全体の景気回復になれば良いと思う。
- ・人口減で多少ずつですが販売力が落ちています。
- ・本当に不景気なのか？イオン・アウトレットモールに販売を持ってかれている様にも思う。
- ・売上減少が続いています。

飲食店

- ・海外での日本食ブームで、国内の食材（魚類）が不足して高値が続いている。
- ・売上高、利益増加傾向です。

サービス業

- ・マイナス金利や住宅ローン引き下げなどで不動産購入の波が今後予想されます。東京など一部に限定されていた活況も地方に広がればよいと期待しています。
- ・買人がもう一段下をねらっています。そのために値段がもう一度下がるかも。
- ・祭りやイベントを増やして街中を活気づかせたい。人が動けば金も動く。

佐野市景況調査 要項

- 1 調査時期 平成28年1月～3月
- 2 調査業種 佐野市内に本支店を有する建設業・製造業・商業・サービス業・飲食店など290社（内訳：佐野商工会議所地区（旧佐野市）200社、佐野市あそ商工会地区（旧田沼町・旧葛生町）90社）を対象として実施した。

(1) 建設業

① 建設業	25社
② 設備工事業	21社

(2) 製造業

① 繊維品製造業	22社
② 食品製造業	18社
③ 機械・金属製品製造業	40社
④ 化学・プラスチック製品製造業	36社
⑤ その他の製造業	22社

(3) 商業・サービス業

① 卸売業	15社
② 小売業（飲・食料品）	23社
③ その他の小売業（大型店含む）	27社
④ 飲食店	19社
⑤ サービス業	22社

3 分析方法[景況動向指数（D I）による]

景況指数は、好況・不況の差を指数にしたものであり、基準指数が「0」で上限限度は、+100・-100となり、プラスは景況の好転、マイナスは景況の悪化をあらわしている。

D I 方式は、
$$\frac{3x - 3z}{3x + 4y + 3z} \times 100$$
により算出

x：「良い」「増加」「騰貴」「過多」等の回答企業数

y：「普通」「ほぼ同様」「適正」の回答企業数

z：「悪い」「減少」「下落」「不足」等の回答企業数

- 4 主 管 佐野商工会議所
- 5 調査協力 佐野市あそ商工会
- 6 お問合先 佐野商工会議所経営支援課 TEL（代表）0283-22-5511

